

「松戸市高齢者保健福祉計画及び松戸市介護保険事業計画」

見直しのための市民アンケート調査

報告書

平成17年3月

松戸市



# 目次

I	調査の概要	1
II	調査結果	5
II-1	市民アンケート調査結果	
◆	回答者の属性	9
1.	暮らし向き	15
1-1	日常生活における「時間のゆとり」「経済的なゆとり」	15
1-2	参加しているサークル活動	19
1-3	参加していない理由	21
1-4	隣近所との付き合いの程度	23
2.	健康や生活に関して	25
2-1	健康状態	25
2-2	健康や生活に関して知りたいと思うこと	28
2-3	健康のために行っていること	30
2-4	健康診断の受診場所	33
2-5	受けた健診の種類	35
2-6	「健康松戸21」で積極的に推進して欲しいこと	36
2-7	保健福祉センター事業の利用状況	37
2-8	保健福祉センター事業を利用していない理由	40
2-9	保健福祉センター事業の今後の利用意向	44
2-10	日常生活上での『こころのハリ』や『生きがい』	50
2-11	生活上での不安や心配	52
2-12	不安や心配の内容	54
3.	福祉活動への関心など	55
3-1	保健・福祉分野の関心度	55
3-2	保健・福祉分野のボランティア活動への参加意向	59
3-3	市内のバリアフリー状況の評価	60
4.	介護をする立場になったときの考え	61
4-1	介護を必要とする家族の有無とその続柄	61
4-2	介護が必要な家族の続柄	63
4-3	家族が要介護となった際の介護場所	64
4-4	家族が要介護となった際の対応	66

4-5	自宅で介護する際に利用を希望する介護サービス	68
5.	介護を受ける立場になったときの考え	70
5-1	要介護となった際の介護場所	70
5-2	自分が要介護となった際の対応	72
5-3	自宅で介護を受ける際に利用を希望する介護サービス	74
6.	保健・医療・福祉サービス	76
6-1	各保健・医療・福祉サービスの認知	76
6-2	充実すべき高齢者施策	80
7.	介護保険制度とそれに関する事柄についての考え	84
7-1	介護保険制度の利用意向	84
7-2	介護保険料納付年齢の認知	86
7-3	介護保険料の負担についての意識	87
8.	自由意見	89

## II-2 介護保険要介護（要支援）認定者調査結果

◆	調査票記入者と本人の生活場所	95
◆	対象者の属性	96
1.	日常生活の状況	107
1-1	日常の生活費の収入源	107
1-2	日常生活の状況	108
1-3	外出頻度	112
1-4	外出の方法	113
1-5	外出の目的	115
1-6	今後の外出意向	117
1-7	外出のために必要な援助	119
2.	介護保険サービスの利用状況	121
2-1	介護保険サービスの利用の有無	121
2-2	介護保険サービスを利用していない理由	123
2-3	介護保険サービスの利用状況	125
2-4	給付限度額からみた介護保険サービスの利用状況	129
2-5	給付限度額まで利用していない理由	132

2-6	利用者負担額についての意識	133
2-7	利用者負担額とサービス提供とのバランス	134
2-8	利用している介護保険サービスの満足度	136
2-9	満足している理由	139
2-10	満足していない理由	144
2-11	ケアマネジャーの対応の満足度	149
2-12	満足していない理由	150
2-13	サービスの利用意向	151
3.	介護保険料（65歳以上対象）	153
3-1	介護保険料の段階	153
3-2	納付している介護保険料の意識	154
3-3	介護保険料の考え方	157
4.	今後の生活と介護サービスの改善方向	158
4-1	今後の生活についての希望	158
4-2	入所の時期	166
4-3	保健・福祉サービスの利用意向	168
4-4	在宅で生活を続けるために必要なこと	171
4-5	介護保険サービスで市に期待すること	175
5.	主な介護者の状況	177
5-1	主な介護者	177
5-2	主な介護者の年齢	178
5-3	主な介護者の健康状態	180
5-4	1日あたりの介護時間	181
5-5	介護を行う上で困っていることや悩んでいること	183
6.	自由意見	185
Ⅲ	調査票	189
	市民アンケート調査	191
	介護保険要介護（要支援）認定者調査	206



# I 調査の概要





## 1. 調査目的

松戸市高齢者保健福祉計画及び松戸市介護保険事業計画を見直すにあたり、市民の高齢社会についての意識、介護に対する考え方、保健・医療・福祉サービスの利用実態及び利用意向を把握することを目的とする。

## 2. 調査設計

(1) 調査地域・・・松戸市全域

(2) 調査対象・・・

市民アンケート調査	対象者：20歳以上の市民〔住民基本台帳から層化無作為抽出 介護保険要介護（要支援）認定者調査対象者を除く〕 標本数：3,000人
介護保険要介護 （要支援）認定者調査	対象者：在宅で生活している40歳以上の介護保険要介護（要支援）認定者 標本数：7,450人（平成16年11月現在の要介護認定者のうち施設入所者以外の者）

(3) 調査方法・・・郵送配布－郵送回収（郵送法）

(4) 調査期間・・・平成17年3月17日（木）～3月28日（月）

(5) 調査機関・・・株式会社サーベイリサーチセンター

## 3. 調査項目

<b>市民アンケート調査</b>
1. 暮らし向き 2. 健康や生活に関して 3. 福祉活動への関心など 4. 介護をする立場になったときの考え 5. 介護を受ける立場になったときの考え 6. 保健・医療・福祉サービス 7. 介護保険制度とそれに関する事柄についての考え
<b>介護保険要介護（要支援）認定者調査</b>
1. 日常生活の状況 2. 介護保険サービスの利用状況 3. 介護保険料（65歳以上対象） 4. 今後の生活と介護サービスの改善方向 5. 主な介護者の状況

## 4. 回収結果

	対象者	有効回収数	有効回収率
市民アンケート調査	3,000	1,125	37.5%
介護保険要介護 (要支援)認定者調査	7,450	4,592	61.6%

## 5. 報告書を読む際の注意

- (1) 図の中のnとは該当設問の回答者数を表している。
- (2) 比率はnを100%とした百分比で算出し、小数点第2位を四捨五入した。そのために、百分比の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答が可能な設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図作成の都合上、選択肢表記や回答の小さい比率は、短縮・省略している場合がある。
- (5) nが20未満と少ないものは、比率が動きやすく分析には適さないため、傾向をみるにとどめる。この為、図表では表示していても本文中では触れていない場合がある。

## II 調査結果

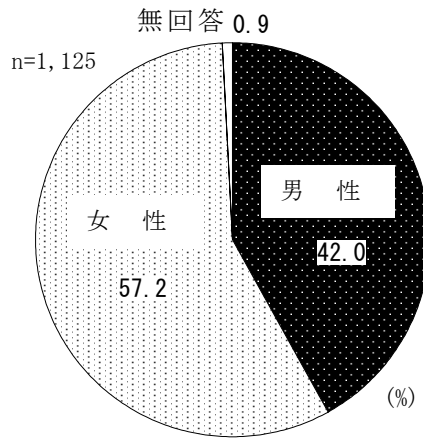


## **II-1 市民アンケート調査結果**



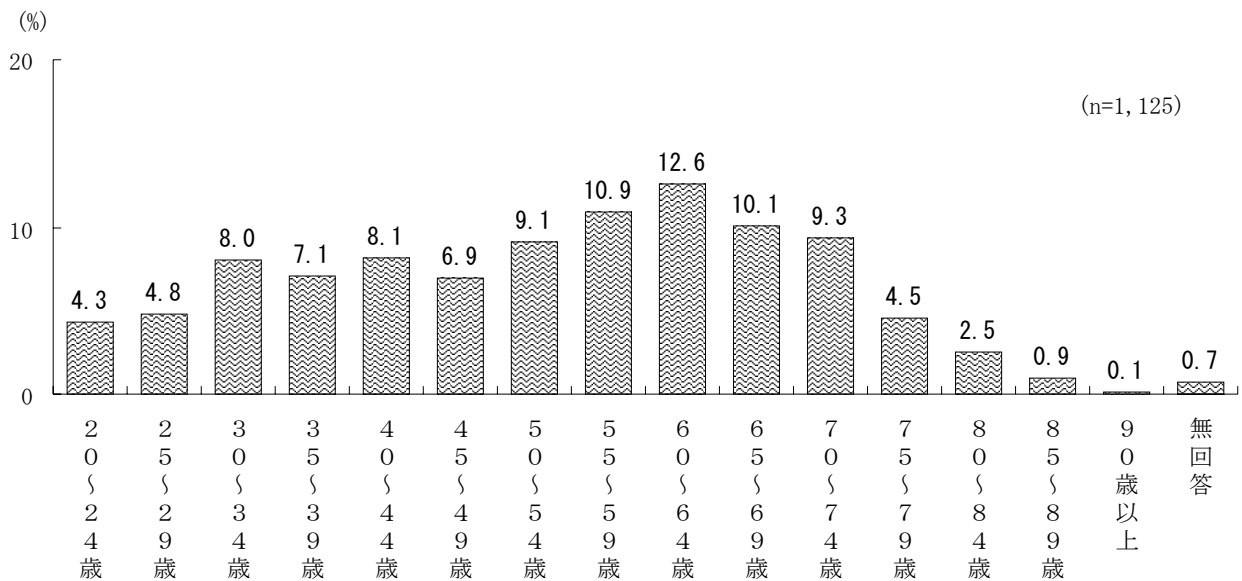
◆回答者の属性

F 1 性別



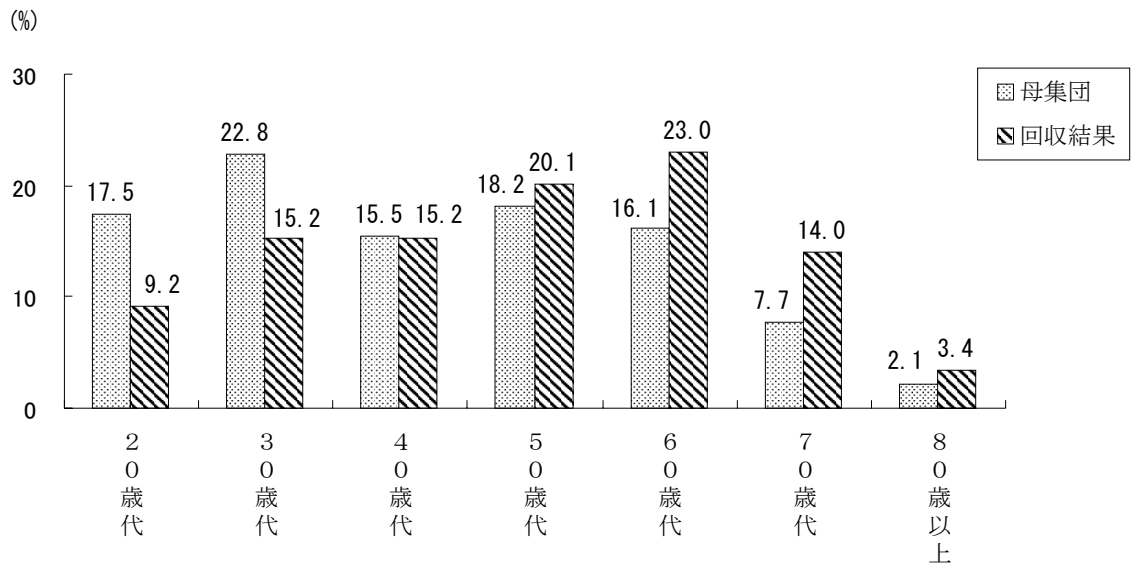
性別構成は、「男性」が42.0%、「女性」が57.2%となっている。

F 2 年齢



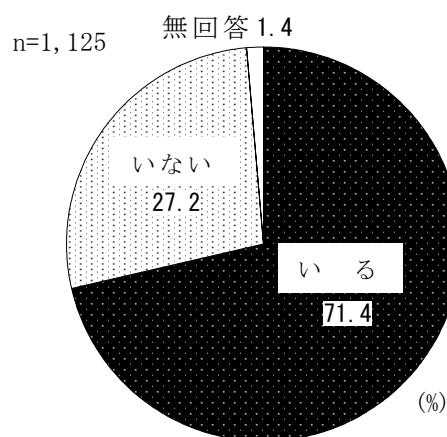
年齢構成は、「60～64歳」が12.6%で最も多く、以下「55～59歳」（10.9%）、「65～69歳」（10.1%）、「70～74歳」（9.3%）、「50～54歳」（9.1%）が1割前後と続く。

〔参考〕 母集団との年齢構成比較



回答者の年齢構成は母集団に比べて20歳代・30歳代が少なく、60歳代・70歳代が比較的多くなっている。

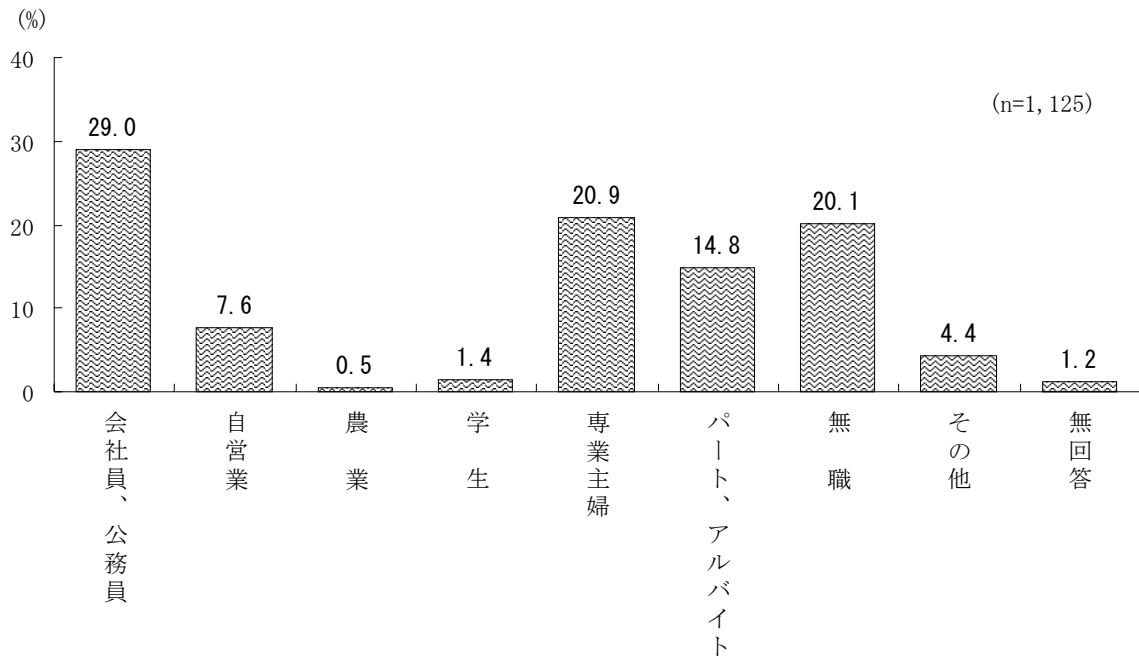
F 3 配偶者（妻または夫）の有無



配偶者が「いる」(71.4%)と回答した人は7割を超え、「いない」は27.2%となっている。

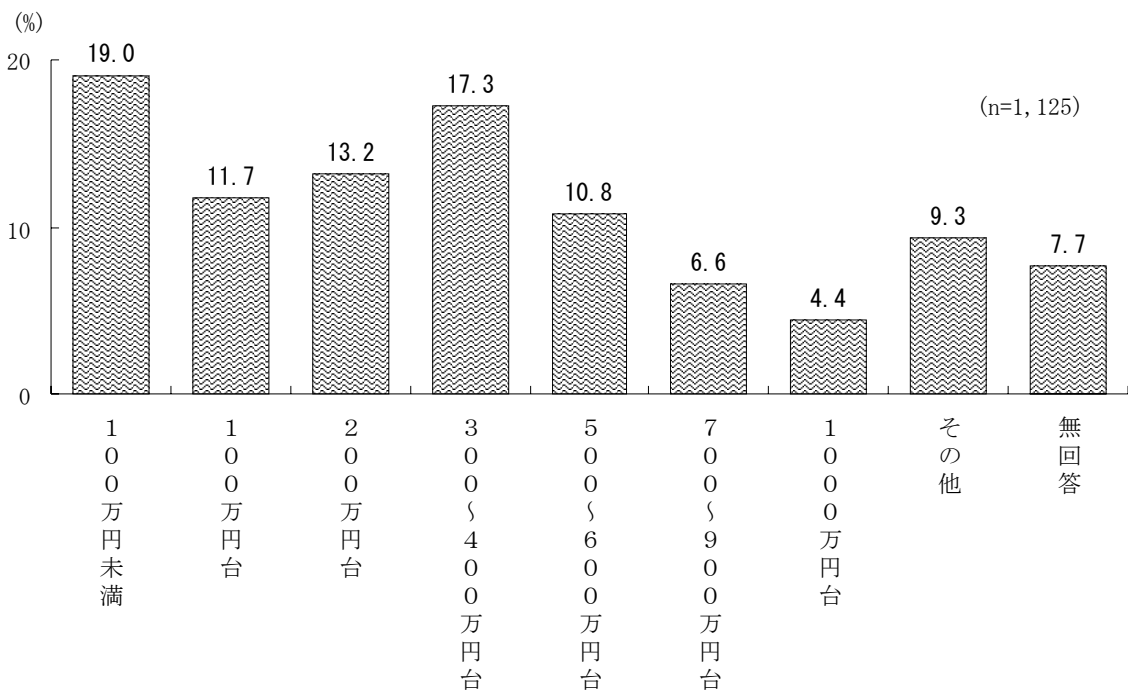


F 4 職業



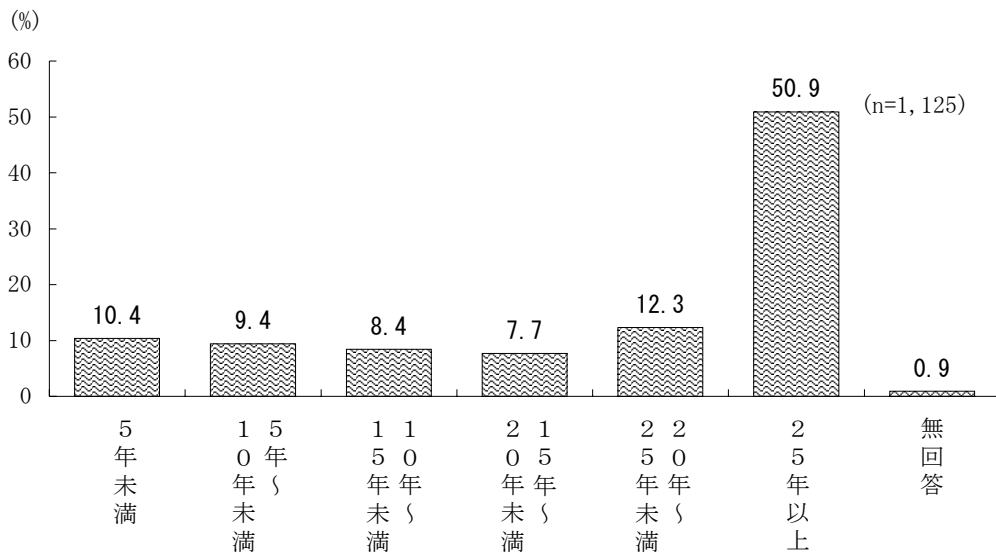
就業形態は、「会社員、公務員」が29.0%、「専業主婦」が20.9%、「無職」が20.1%の順となっている。

F 5 年収（税込み）



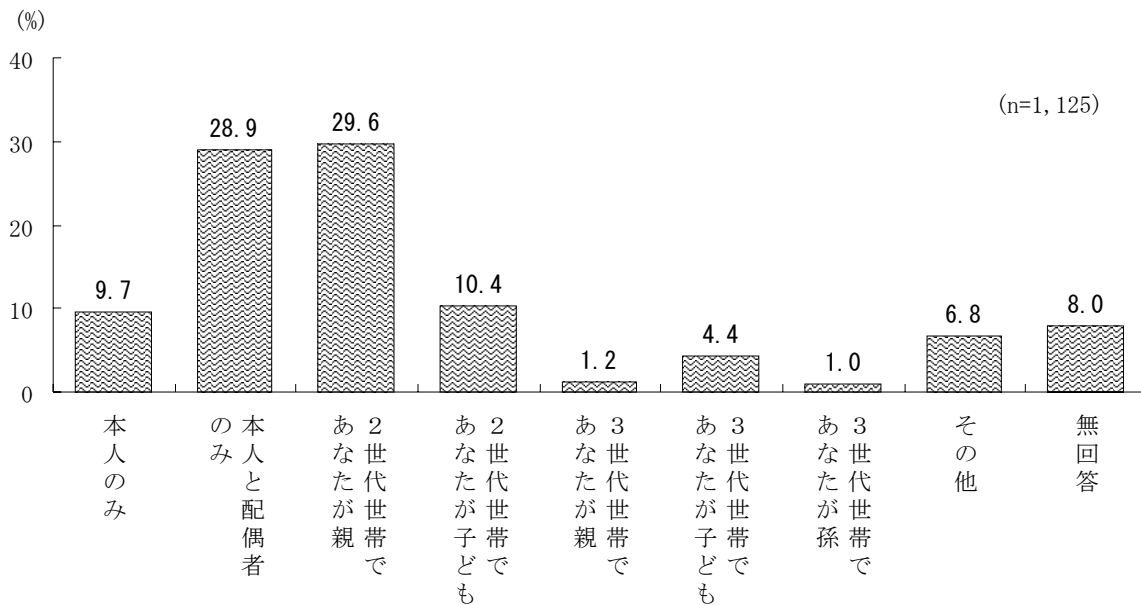
年収は、「100万円未満」が19.0%で最も多く、次いで「300～400万円台」（17.3%）、「200万円台」（13.2%）と続いている。

F 6 市内居住期間



居住年数では、「25年以上」が50.9%で最も多い。

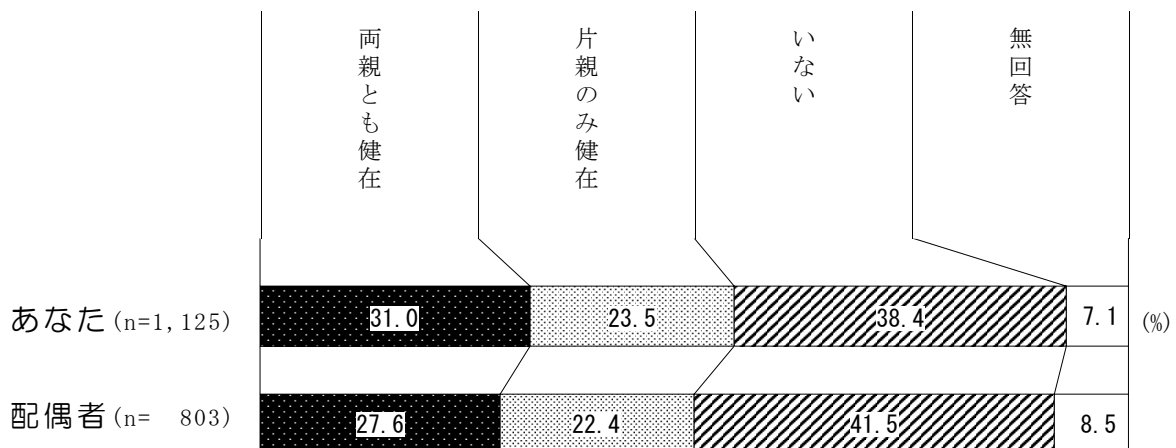
F 7 家族構成



〔家族の人数：平均 2.9人〕

家族構成では、「2世代世帯であなたが親」が29.6%、「本人と配偶者のみ」が28.9%となっている。この他、「2世代世帯であなたが子ども」(10.4%)と「本人のみ」(9.7%)が1割前後となっている。

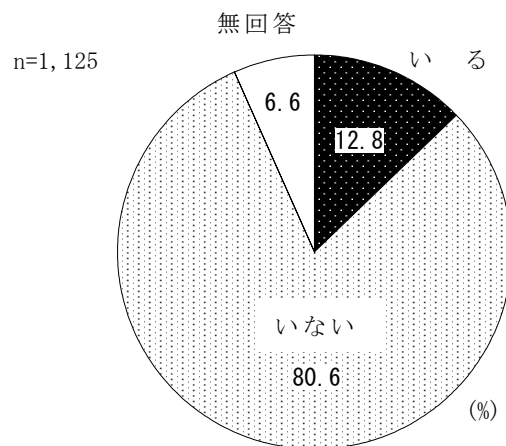
F 8 本人、配偶者の両親の健在状況



本人の両親の健在状況では、「いない」が38.4%、「両親とも健在」が31.0%、「片親のみ健在」が23.5%の順となっている。

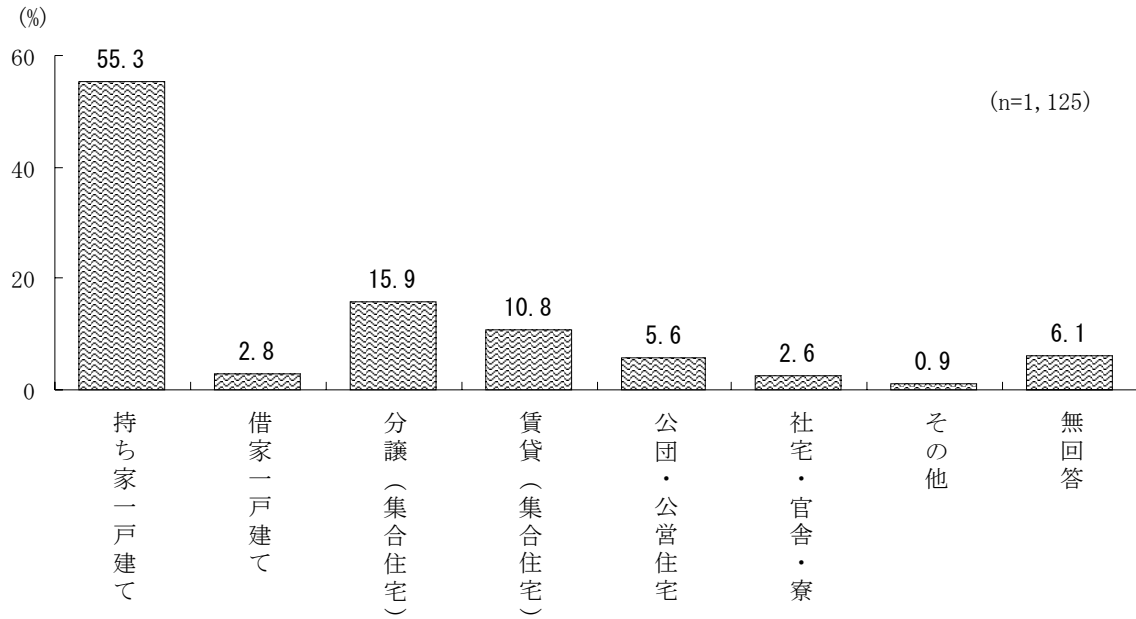
配偶者の両親の健在状況では、「いない」が41.5%、「両親とも健在」が27.6%、「片親のみ健在」が22.4%となっている。

F 9 家族（本人含む）に介護を必要とする方



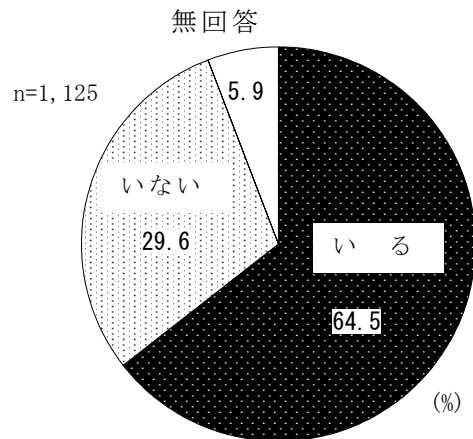
家族（本人を含む）に介護を必要とする人が、「いる」は12.8%、「いない」は80.6%となっている。

F 10 住居形態



住居形態は、「持ち家一戸建て」が55.3%で最も多い。この他では「分譲（集合住宅）」（15.9%）と「賃貸（集合住宅）」（10.8%）が1割台となっている。

F 11 自宅から1時間以内でいける肉親の存在



自宅から1時間以内でいける肉親の存在が「いる」は64.5%で、「いない」は29.6%となっている。

# 1. 暮らし向き

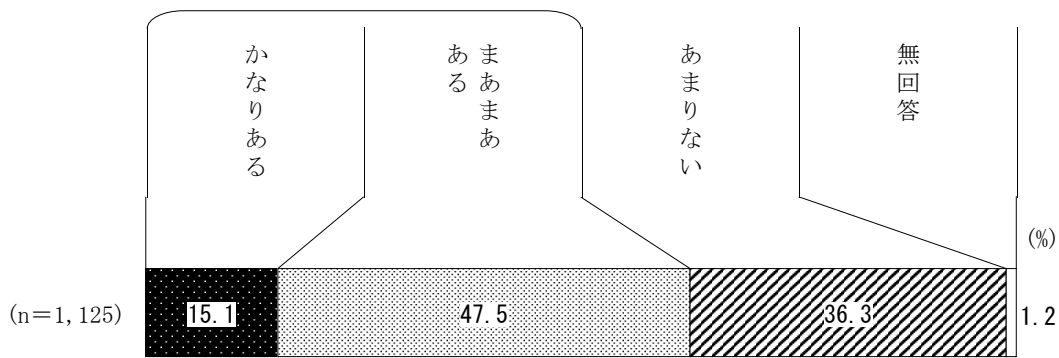
## 1-1 日常生活における「時間のゆとり」「経済的なゆとり」

問1 あなたは、自分自身のふだんの生活の中でどの程度ゆとりがあると感じていますか。「時間的なゆとり」と「経済的なゆとり」にわけてお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

### (1) 時間のゆとり

図1-1 時間のゆとり

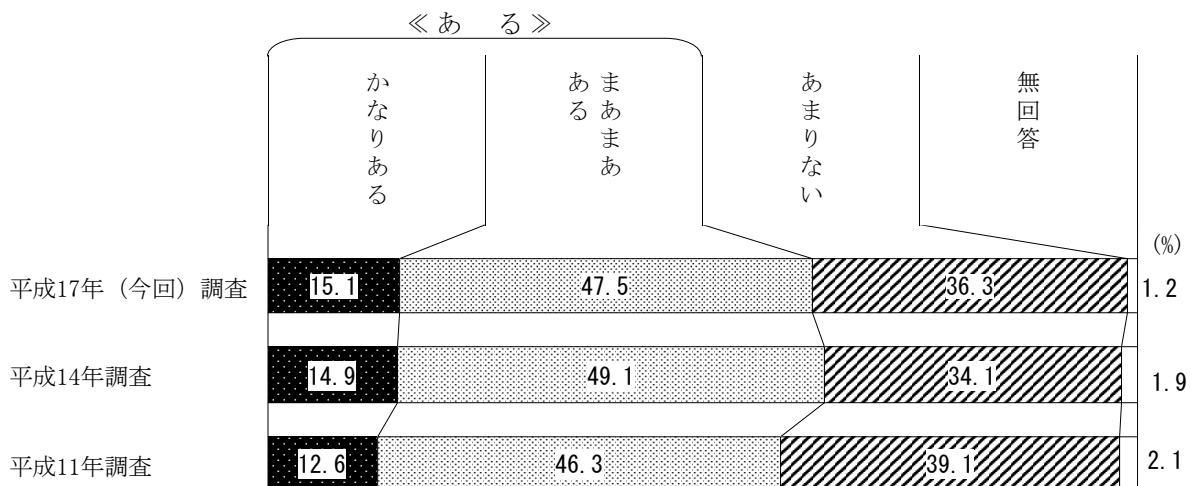
《あ る》



時間のゆとりについて、「まあまあある」は47.5%、「かなりある」は15.1%となり、両者を合わせた《ある》は6割を超えている。一方、「あまりない」は36.3%となっている(図1-1)。

経年比較では、大きな違いはみられない(図1-2)。

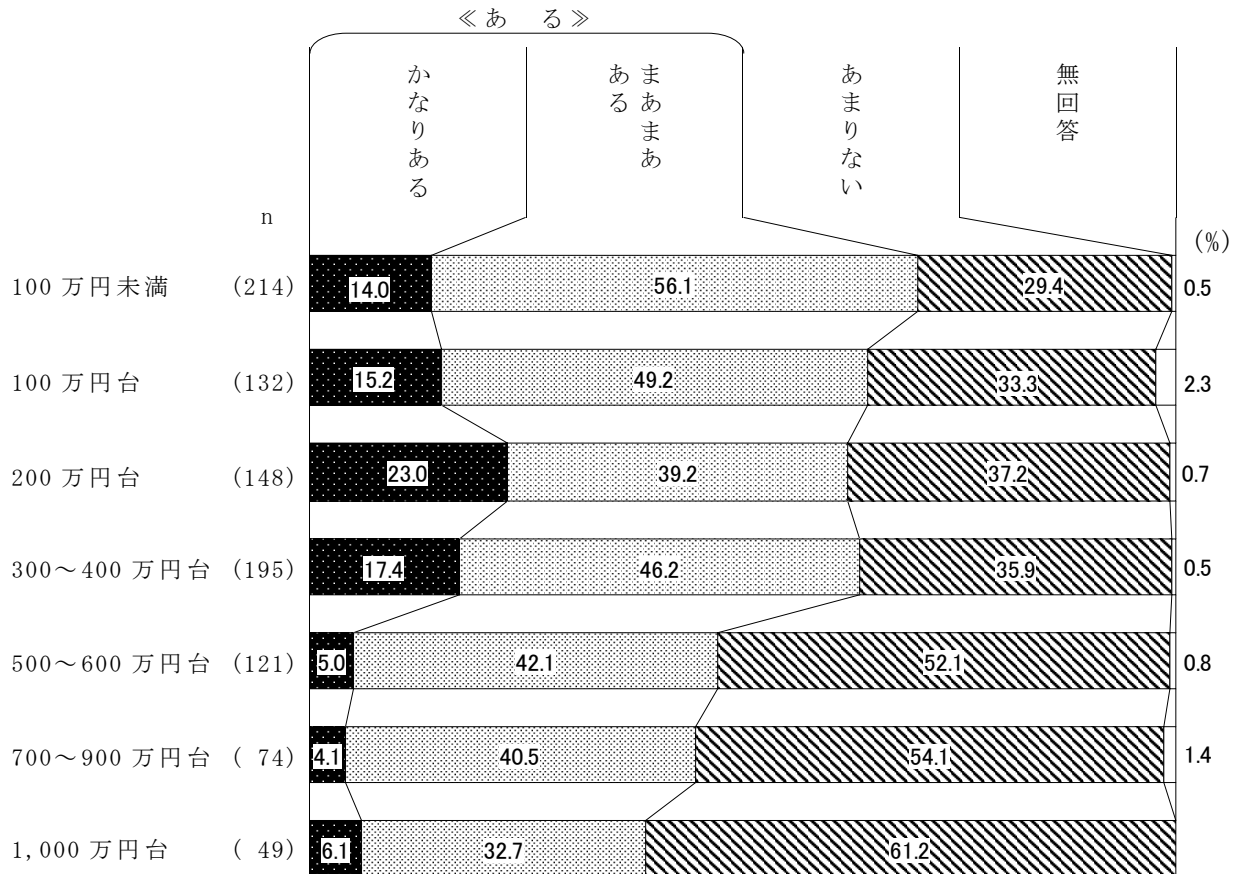
図1-2 経年比較 時間のゆとり



市民アンケート調査結果

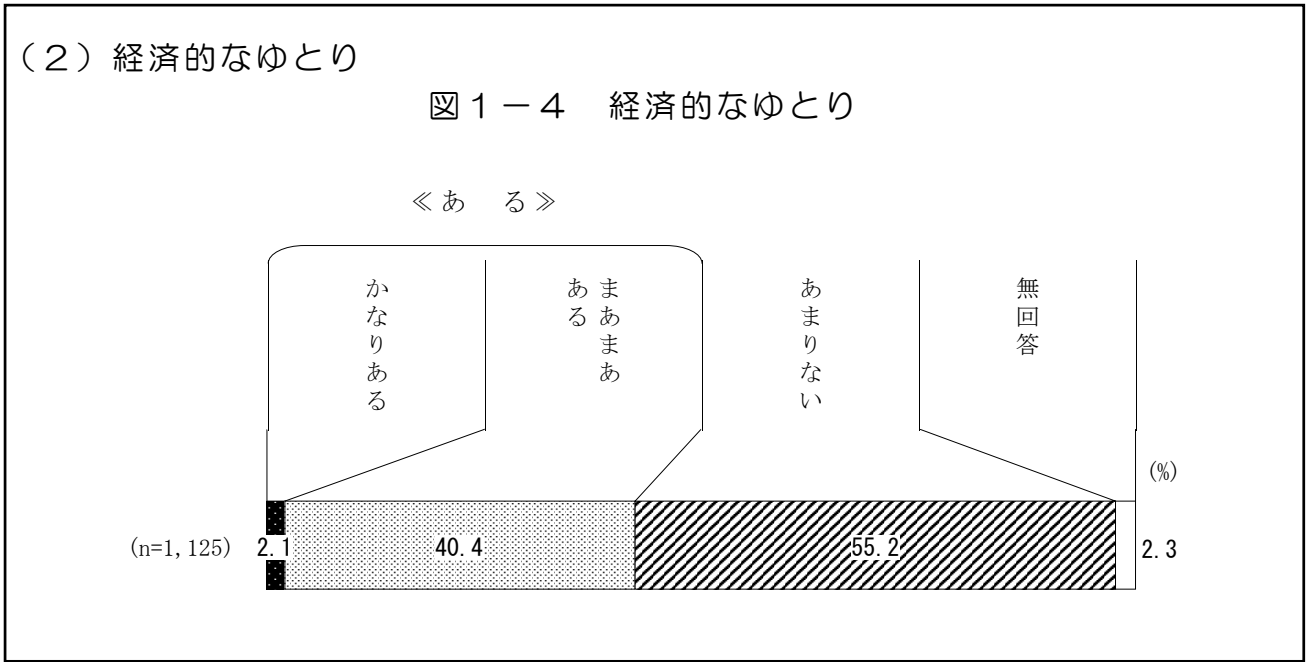
年収別にみると、時間のゆとりが《ある》のは、年収が400万円台以下の層で高くなっている（図1-3）。

図1-3 年収別 時間のゆとり



(2) 経済的なゆとり

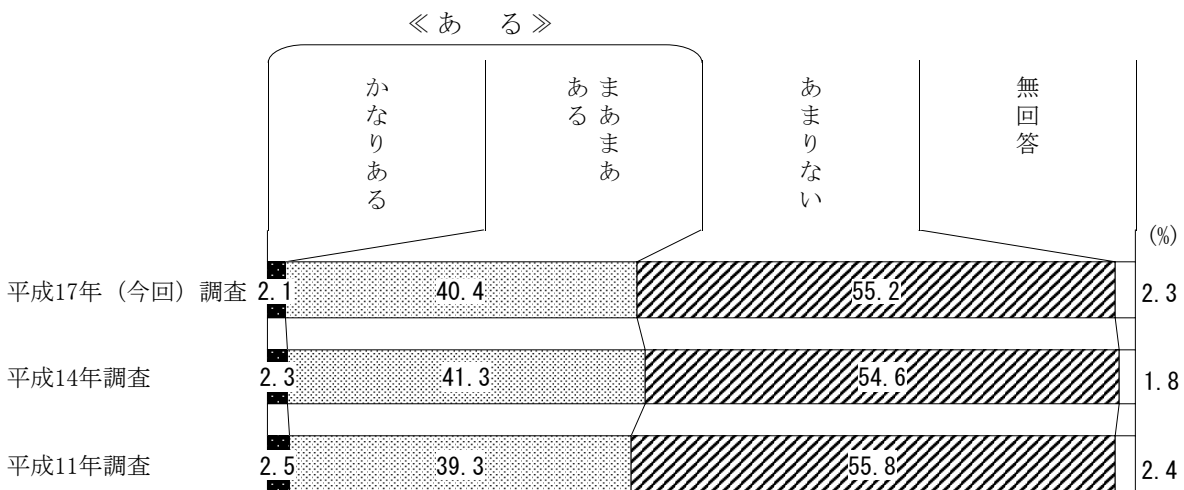
図1-4 経済的なゆとり



経済的なゆとりについて、「あまりない」が55.2%と半数を超え、「まあまあある」(40.4%)と「かなりある」(2.1%)を合わせた《ある》は4割強となっている(図1-4)。

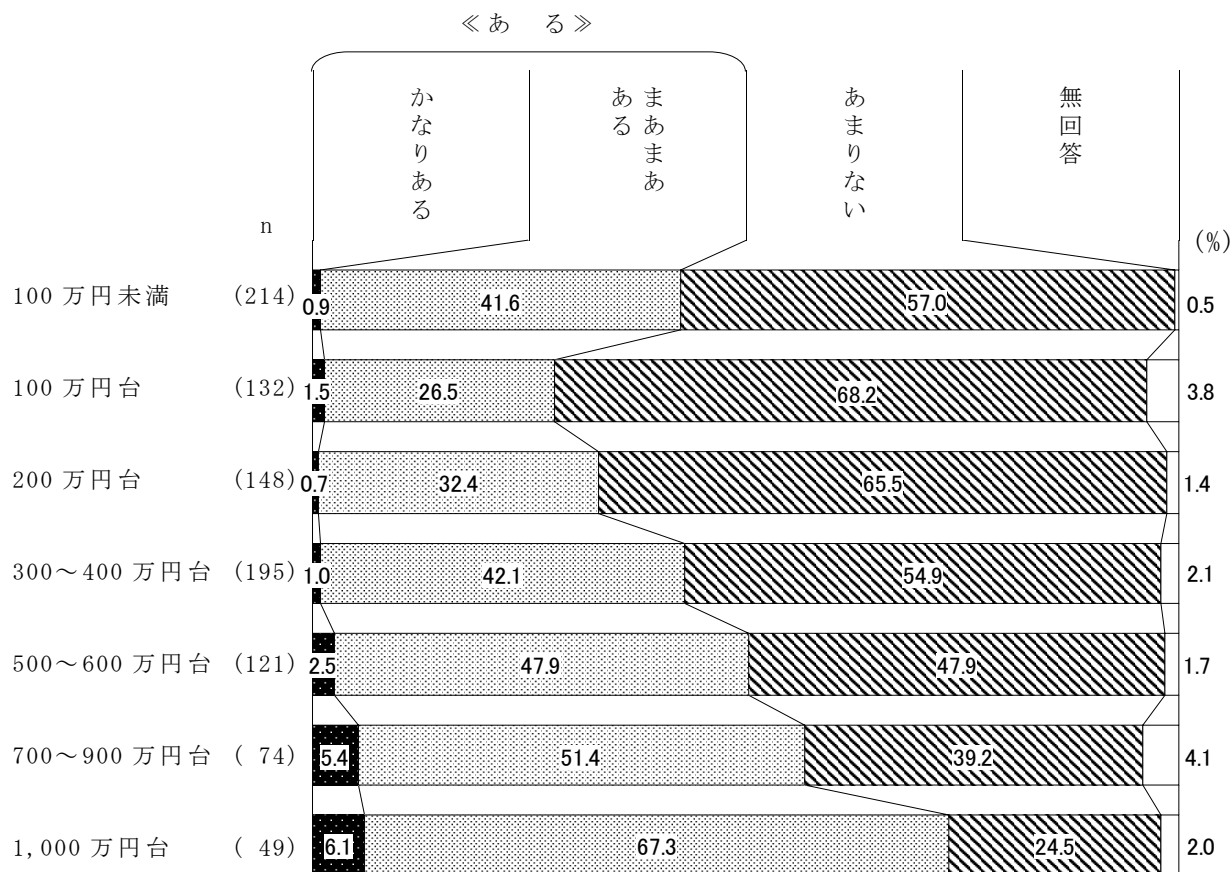
経年比較では、大きな違いはみられない(図1-5)。

図1-5 経年比較 経済的なゆとり



年収別にみると、経済的なゆとりが《ある》は、年収が多くなるにつれて高くなる傾向がみられるが、100万円未満でも42.5%と高くなっている（図1-6）。

図1-6 年収別 経済的なゆとり

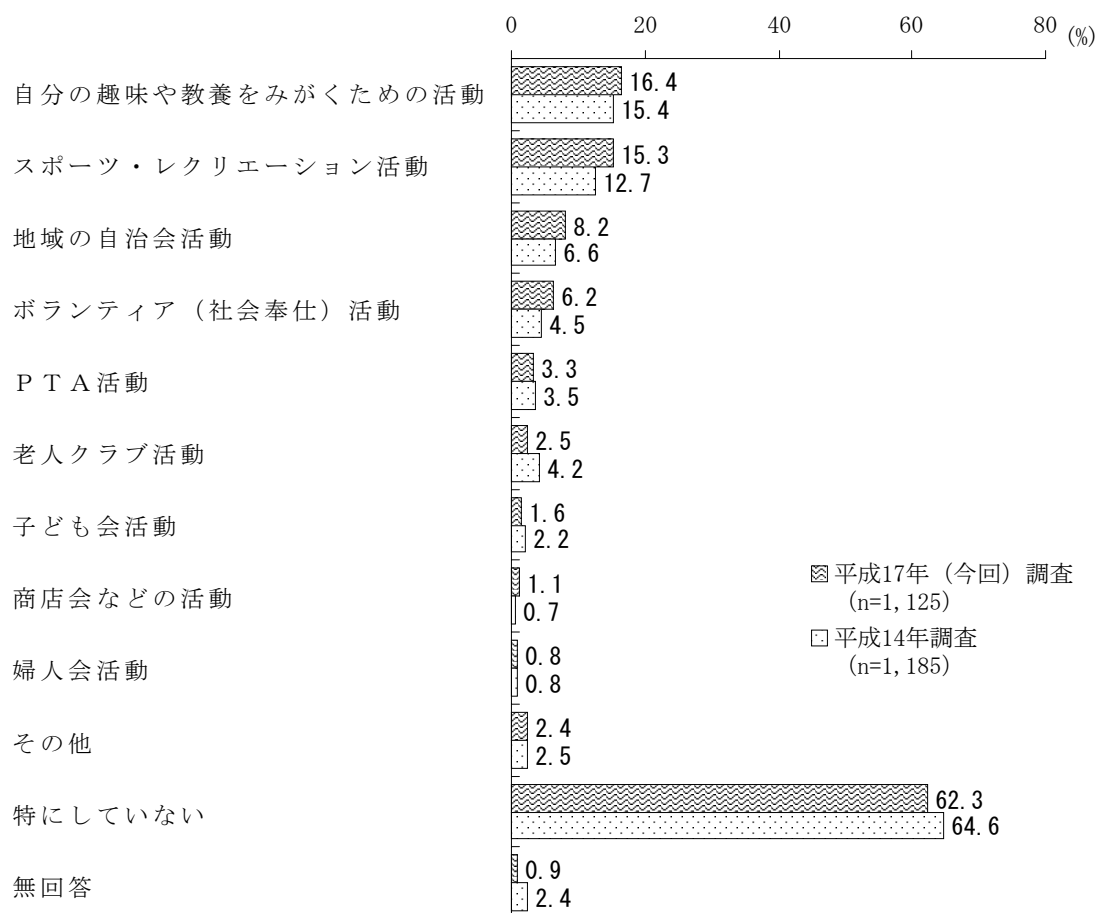




1-2 参加しているサークル活動

問2 あなたは、現在、地域の人たちとのサークル活動などをしてしていますか。  
次の中から参加している主なものを選んでください。(〇は3つまで)

図1-7 参加しているサークル活動



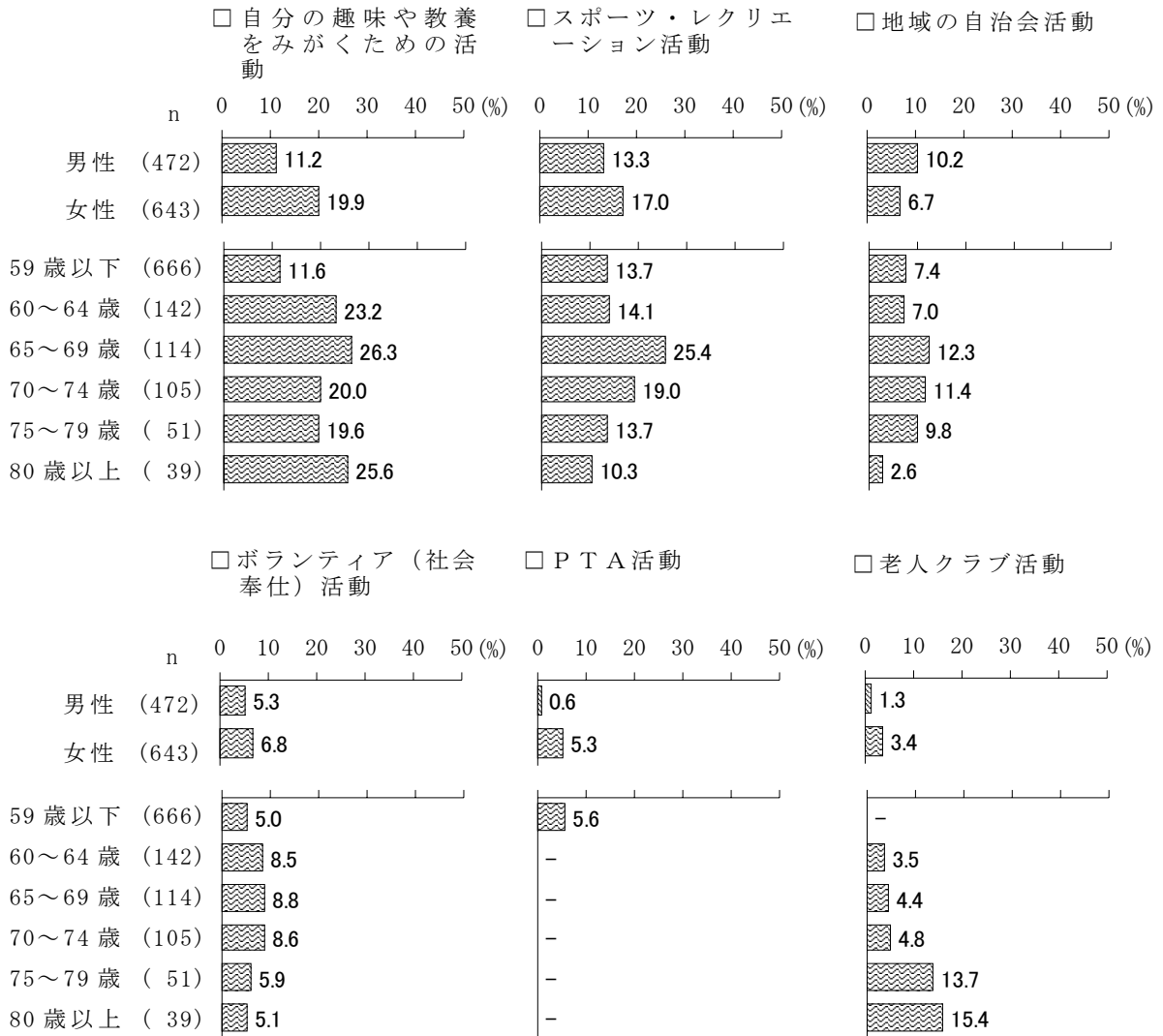
参加しているサークル活動では、「自分の趣味や教養をみがくための活動」(16.4%)と「スポーツ・レクリエーション活動」(15.3%)が1割台と比較的多くなっている。一方、「特にしていない」は6割強である(図1-7)。

経年比較では、大きな違いはみられない(図1-7)。

性別にみると、多くの項目で女性が男性を上回るが、「地域の自治会活動」は男性で10.2%と比較的多くなっており、女性を3.5ポイント上回っている(図1-8)。

年齢別にみると、65~69歳では「自分の趣味や教養をみがくための活動」や「スポーツ・レクリエーション活動」、「地域の自治会活動」の参加状況が最も高くなっている(図1-8)。

図 1-8 性別、年齢別 参加しているサークル活動（上位6項目）



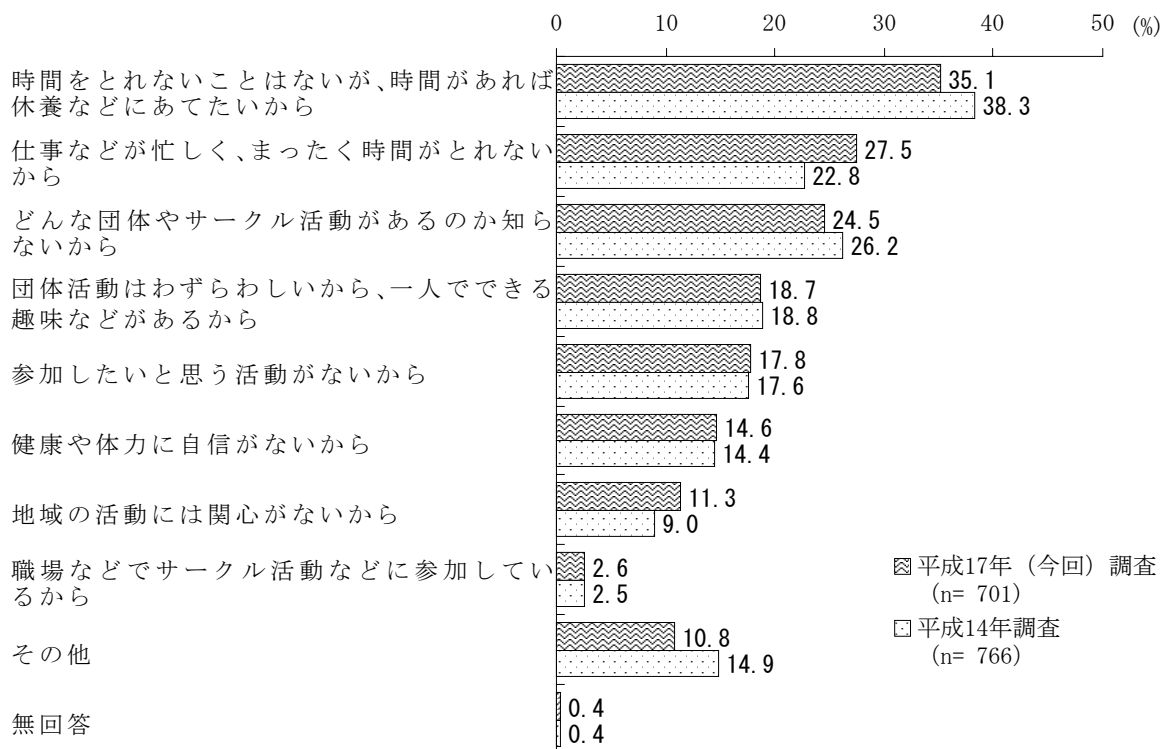
1-3 参加していない理由

【問2で「特にしていない」を選んだ方におたずねします。】

問2-1 特にしていないのはどのような理由からですか。

(あてはまるものすべてに○)

図1-9 参加していない理由



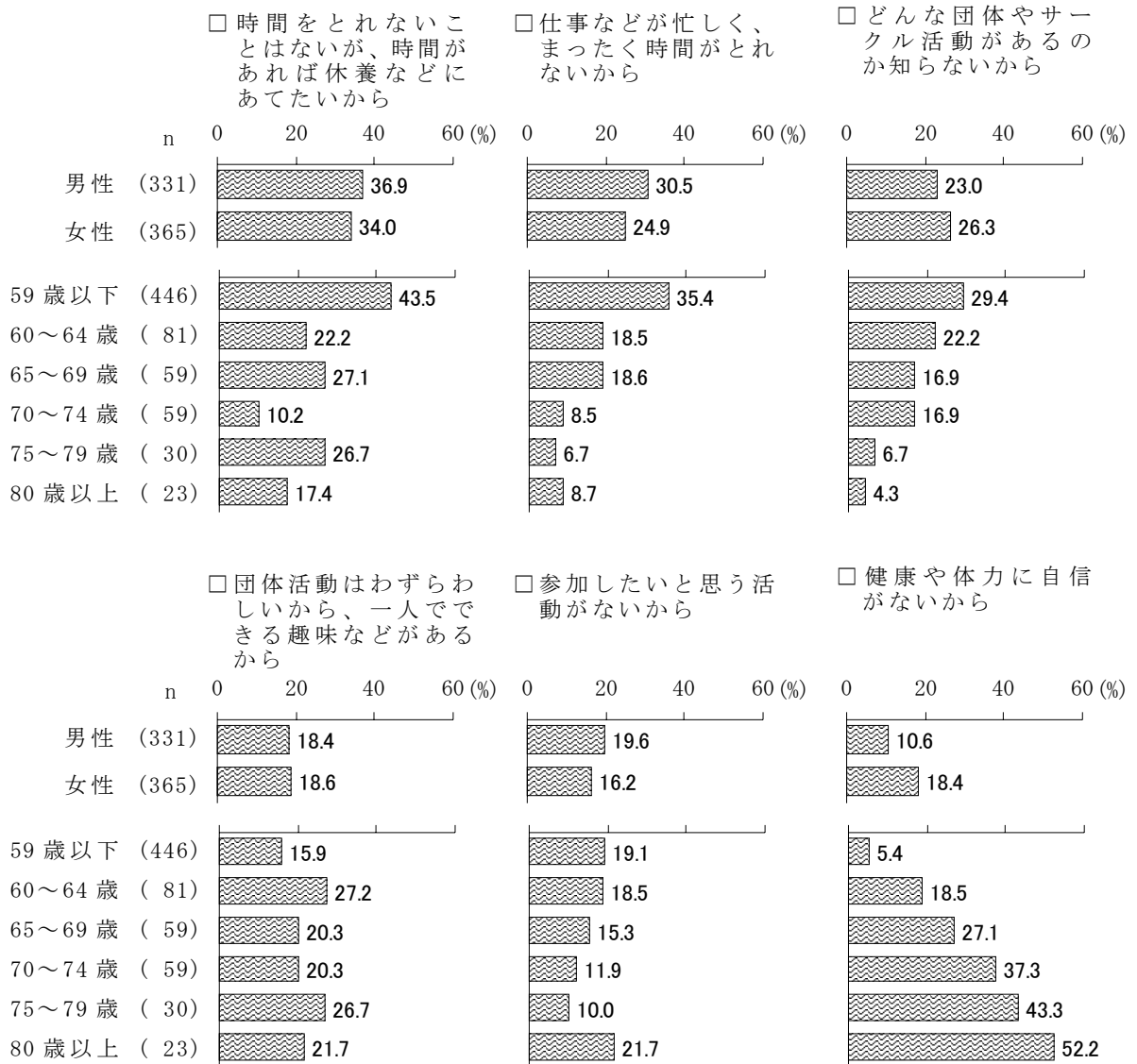
サークル活動を「特にしていない」という人(62.3%)に理由をきくと、「時間をとれないことはないが、時間があれば休養などにあてたいから」が35.1%で最も多く、これに「仕事などが忙しく、まったく時間がとれないから」(27.5%)と「どんな団体やサークル活動があるのか知らないから」(24.5%)が2割台で次いでいる(図1-9)。

経年比較でみると、「時間をとれないことはないが、時間があれば休養などにあてたいから」は前回より3.2ポイント減少し、「仕事などが忙しく、まったく時間がとれないから」が4.7ポイント上昇している(図1-9)。

性別にみると、「仕事などが忙しく、まったく時間がとれないから」は男性で30.5%と特に多くなっている(図1-10)。

年齢別にみると、50歳代までは“時間のなさ”が多くあげられている。また、「どんな団体やサークル活動があるのか知らないから」という“情報のなさ”もこの層を中心に高くなっている。60歳以上では健康面の問題が年代とともに多くあげられている(図1-10)。

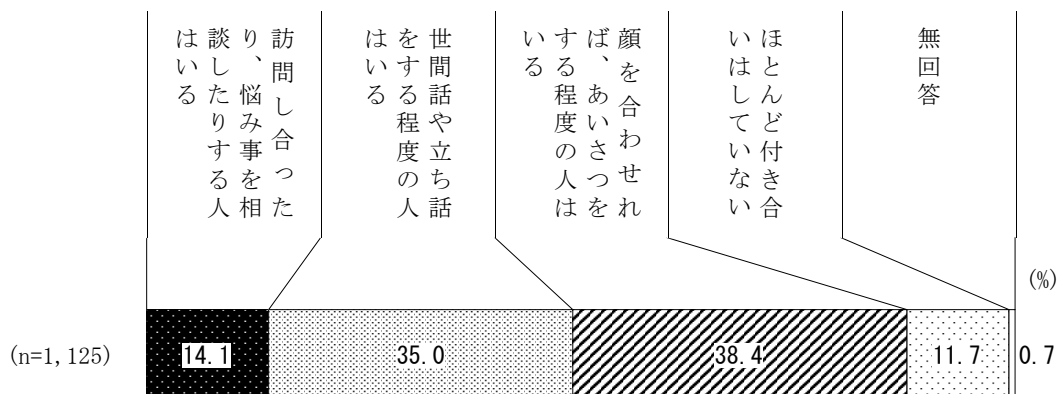
図1-10 性別、年齢別 参加していない理由（上位6項目）



1-4 隣近所との付き合いの程度

問3 あなたは、日頃、隣近所とどの程度の付き合いをしていますか。  
(○は1つ)

図1-11 隣近所との付き合いの程度



隣近所との付き合いの程度では、「顔を合わせれば、あいさつをする程度の人はいる」が38.4%で最も多い。以下、「世間話や立ち話をする程度の人はいる」が35.0%、「訪問し合ったり、悩み事を相談したりする人はいる」が14.1%、「ほとんど付き合いはしていない」11.7%の順である（図1-11）。

性別では、「訪問し合ったり、悩み事を相談したりする人はいる」は男性（5.9%）より女性（20.2%）が14.3ポイント高くなっている。また、「顔を合わせれば、あいさつをする程度の人はいる」では女性（32.0%）より男性（47.5%）が15.5ポイント高い（図1-12）。

年齢別にみると、「訪問し合ったり、悩み事を相談したりする人はいる」では80歳以上が最も高く約3割となっている。一方、「ほとんど付き合いはしていない」は、59歳以下が最も高く1割半ばである（図1-12）。

図 1-12 性別、年齢別 隣近所との付き合いの程度

